

愛大九条の会一周年記念シンポジウム

「憲法九条と日本の未来」

日時：2007年7月7日（土） 14:00～17:00

場所：愛知大学 車道校舎9階 K903教室

（地下鉄桜通線「車道」駅・1番出口から徒歩1分）

協力金：500円（学生は無料）

コーディネーター：加々美光行氏（愛知大学 ICCS 所長、中国政治思想）

パネリストの皆さま：

奥平康弘氏：2004年に大江健三郎らとともに「九条の会」を結成した9人のひとりで、東京大学名誉教授。憲法学界の重鎮で、「表現の自由」研究の第一人者。『憲法の想像力』（日本評論社、2003年）、『「萬世一系」の研究—「皇室典範的なるもの」への視座』（岩波書店、2005年）など、著書多数。シンポジウムでは、憲法学の立場から発言していただきます。



児玉克哉氏：国際平和研究学会事務局長で、三重大学人文学部教授。グローバルな視点から社会科学の発展に寄与し、地域社会のオピニオンリーダーとして様々な提言を行っている。『ブータン難民』（三重県人権問題研究所、2004年）、『フェアトレードの話』（地域開発企画、2004年）など、著書多数。シンポジウムでは、平和学の立場から発言していただきます。



スヴェン・サーラ氏：ドイツ・日本研究所部長を経て、東京大学大学院総合文化研究科准教授。日本政治史・外交史を専門とする新進気鋭の日本研究者。『*Der Russisch-Japanische Krieg 1904/05 im Spiegel deutscher Bilderbogen*』（『日露戦争百周年記念展覧会「ヨーロッパから見た日露戦争—版画新聞、絵葉書、錦絵」』、和文・独文、Tokyo: Deutsches Institut fuer Japanstudien、2005年）、『*Pan-Asianism in Modern Japanese History. Colonialism, regionalism and borders*』（『近現代日本史におけるアジア主義—植民地主義、地域主義、境界』英文、共編著、London and New York: Routledge、2007年）など、著書多数。シンポジウムでは、ドイツ人の立場から発言していただきます。



フロアからの討論者：鈴木規夫氏（愛知大学国際コミュニケーション学部教授、政治哲学）
長峯信彦氏（愛知大学法学部准教授、憲法学）

* シンポジウム終了後、「愛大九条の会」の総会を開催いたします。

問合せ先：jimukyoku@aidai9jo.sakura.ne.jp（「愛大九条の会」事務局）